

家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう（無い場合は水のう）を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板（はしごやテーブルでもOK）などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。

簡易水防工法例 ①

プランター + ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。

簡易水防工法例 ②

簡易水のう + 止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入りに設置し、浸水を防ぎます。

簡易水のうの作り方

家庭で使用しているごみ袋（40リットル程度の容量）を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

家屋の被害を抑える

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。

外壁

- モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

屋根・雨どい

- 不安定なアンテナはありませんか
- トタンがめくれていますか
- 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていますか

ブロック

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

板塀

- 板塀に腐りや浮きはありますか
- 板塀に支柱はありますか

排水溝

- 側溝や雨水すみにゴミや土砂はありませんか

窓

- 窓枠のがたつきはありませんか
- 雨戸のがたつきはありませんか

その他

- ガスボンベは固定していますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 庭木には添え木をしていますか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。下に示すような前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、愛荘町役場へご連絡ください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害が発生するのか、確認しておきましょう。

がけ崩れ	土石流	地すべり
<p>地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。</p>	<p>大雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。崩壊土砂により河川をせき止める場合があります。</p>	<p>大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。ゆっくり動き出すため避難が遅れる場合があります。</p>

！ こんなときは要注意 土砂災害の前ぶれ(前兆現象)

五感	移動主体	がけ崩れ	土石流	地すべり
視	山・斜面・がけ	<ul style="list-style-type: none"> ●がけに割れ目がみえる。 ●がけから小石がパラパラと落ちる。 ●斜面がはらみだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●溪流付近の斜面が崩れだす。 ●落石が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地面にひび割れができる。 ●地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする。
	水	<ul style="list-style-type: none"> ●表面流が生じる。 ●がけから水が噴き出す。 ●湧水が濁りだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●川の水が異常に濁る。 ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 ●土砂の流出。 	<ul style="list-style-type: none"> ●沢や井戸の水が濁る。 ●斜面から水が噴き出す。 ●池や沼の水かさか急減する。
音	樹木	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木が傾く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●濁水に流木が混じりだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木が傾く。
	音	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木の根が切れる音がする。 ●樹木の揺れる音がする。 ●地鳴りがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地鳴りがする。 ●山鳴りがする。 ●転石のぶつかり合う音。 	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木の根が切れる音がする。
におい			<ul style="list-style-type: none"> ●腐った土のにおいがする。 	

※上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、滋賀県と彦根地方気象台が共同で発表する情報です。



土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、早めに避難行動をとってください。

洪水・土砂災害ハザードマップ 索引図

このマップについて

- 「洪水・土砂災害ハザードマップ」は、水路の排水能力を超える大雨が降った場合に発生する内水はん濫と、淀川水系愛知川及び宇曾川の堤防が決壊した場合や、堤防から水が溢れた場合に起こりうる最悪の場合の外水はん濫を重ね合わせて、最大の浸水深を示しています。
- 内水はん濫は、概ね200年に1回程度起こり得る大雨により、普通河川、雨水幹線や農業排水路の排水能力を超過した場合に発生する浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。

- 外水はん濫は、概ね100年に1回程度起こり得る大雨により、愛知川及び宇曾川がはん濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。
- ここに示した浸水想定区域外においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- ため池の浸水範囲も記載しておりますので、浸水深などの詳しい情報は町ホームページをご確認ください。

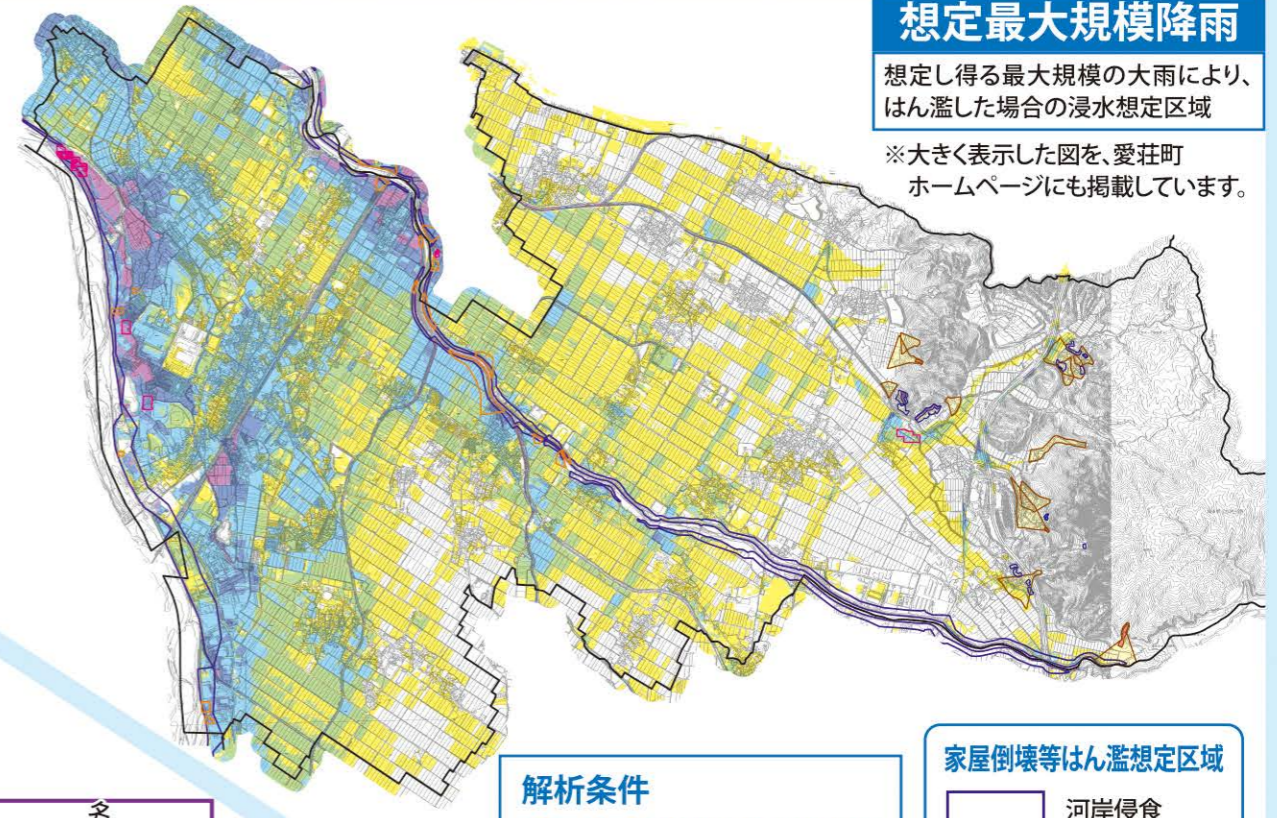
URL <https://www.town.aisho.shiga.jp/sangyo/nogyo/2/1332.html>



想定最大規模降雨

想定し得る最大規模の大雨により、はん濫した場合の浸水想定区域

※大きく表示した図を、愛荘町ホームページにも掲載しています。



解析条件

- ・内 水: 24時間総雨量634mm
- ・愛知川: 24時間総雨量714mm
- ・宇曾川: 12時間総雨量700mm

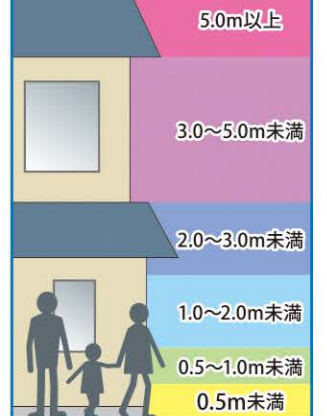
家屋倒壊等はん濫想定区域

- 河岸侵食
- はん濫流
- 家屋流失

洪水浸水深

- 5.0m以上
- 3.0~5.0m未満
- 2.0~3.0m未満
- 1.0~2.0m未満
- 0.5~1.0m未満
- 0.5m未満

浸水深の目安



土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地警戒区域
- 急傾斜地特別警戒区域
- 土石流警戒区域
- 土石流特別警戒区域

解析条件

最新の地形データをもとに県が解析を実施したもので、5m四方の標高データが反映されています。

- ・内 水: 24時間総雨量529mm(2020年3月公表)
- ・愛知川: 3時間総雨量188mm(2020年6月公表)
- ・宇曾川: 24時間総雨量480mm(2019年3月公表)

